

第8期

(2022年4月1日～2023年3月31日)

連結計算書類

計算書類

関西エアポート株式会社

連結貸借対照表

〔2023年3月31日現在〕

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	93,767	流 動 負 債	70,327
現金及び預金	71,702	買掛金	2,724
売掛金	9,242	未払金	14,965
契約資産	120	未払費用	2,353
商 品	3,030	短期借入金	10,000
原材料及び貯蔵品	1,311	1年内返済予定の長期借入金	4,102
1年内回収予定の差入保証金	2,215	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	30,326
未 収 金	2,659	未払法人税等	345
そ の 他	3,485	契 約 負 債	1,719
貸倒引当金	△0	賞 与 引 当 金	1,055
固 定 資 産	1,510,356	ポ イ ン ト 引 当 金	15
有 形 固 定 資 産	26,470	そ の 他	2,718
建物及び構築物	3,609	固 定 負 債	1,506,601
機械装置及び運搬具	12,110	社 債	4,860
工具器具備品	4,821	長 期 借 入 金	214,205
土 地	578	公共施設等運営権に係る負債	1,221,878
建設仮勘定	5,276	特 別 修 繕 引 当 金	50,364
そ の 他	74	退 職 給 付 に 係 る 負 債	6,632
無 形 固 定 資 産	1,347,727	そ の 他	8,661
公共施設等運営権	1,277,460	負 債 合 計	1,576,929
更新投資に係る資産	68,310	純 資 産 の 部	
そ の 他	1,956	株 主 資 本	24,594
投 資 そ の 他 の 資 産	136,158	資 本 金	25,000
投資有価証券	1,004	資 本 剰 余 金	25,000
退職給付に係る資産	297	利 益 剰 余 金	△25,405
差入保証金	88,377	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額	630
繰延税金資産	45,488	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	630
そ の 他	1,178	非 支 配 株 主 持 分	1,969
貸倒引当金	△188	純 資 産 合 計	27,194
資 産 合 計	1,604,123	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,604,123

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結損益計算書

〔 自 2022年4月1日 〕
〔 至 2023年3月31日 〕

(単位：百万円)

営業収益		99,875
営業原価		100,191
営業総損失		316
販売費及び一般管理費		14,461
営業損失		14,777
営業外収益		1,482
受取利息及び配当金	501	
雇用調整助成金	311	
その他の営業外収益	669	
営業外費用		12,340
支払利息	12,089	
支払手数料	66	
持分法による投資損失	173	
その他の営業外費用	9	
経常損失		25,635
特別利益		426
固定資産売却益	319	
補助金収入	106	
特別損失		2,083
固定資産除却損	1,037	
固定資産売却損	0	
固定資産圧縮損	30	
更新投資に伴う撤去費用	1,015	
税金等調整前当期純損失		27,292
法人税、住民税及び事業税	290	
法人税等調整額	△8,673	△8,383
当期純損失		18,909
非支配株主に帰属する当期純利益		86
親会社株主に帰属する当期純損失		18,996

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結株主資本等変動計算書

(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				その他の包括利益 累 計 額		非 支 配 株 主 持 分	純資産合計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	株 主 資 本 合 計	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当 期 首 残 高	25,000	25,000	△6,039	43,960	△98	△98	1,883	45,746
会計方針の変更による累積的影響額			△370	△370				△370
遡 及 処 理 後 当 期 首 残 高	25,000	25,000	△6,409	43,590	△98	△98	1,883	45,375
当 期 変 動 額								
剰余金の配当			—	—				—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△18,996	△18,996				△18,996
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					728	728	86	814
当 期 変 動 額 合 計	—	—	△18,996	△18,996	728	728	86	△18,181
当 期 末 残 高	25,000	25,000	△25,405	24,594	630	630	1,969	27,194

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

1-1 連結の範囲に関する事項

①連結子会社の数及び

主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 7社

主要な連結子会社の名称

関西エアポート神戸株式会社

関西エアポートリテールサービス株式会社

関西国際空港熱供給株式会社

関西エアポートテクニカルサービス株式会社

②非連結子会社の名称

該当事項はありません。

1-2 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の数

及び主要な会社等の名称

持分法を適用した関連会社の数 1社

会社等の名称

日航関西エアカーゴ・システム株式会社

1-3 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

1-4 会計方針に関する事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によりしております。

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法によりしております。

②デリバティブ

時価法によりしております。

③棚卸資産

商品

主として先入先出法に基づく原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によりしております。

原材料及び貯蔵品

主として最終仕入原価法に基づく原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によりしております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

(リース資産を除く)

主として定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	3～60年
機械装置及び運搬具	2～18年
工具器具備品	2～20年

②無形固定資産

(リース資産を除く)

定額法によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

なお、公共施設等運営権及び更新投資に係る資産の減価償却の方法については、「5. 連結貸借対照表に関する注記 5-4 公共施設等運営権及び更新投資に係る資産」に記載のとおりです。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。

③ポイント引当金

カード会員に付与したポイントの使用による費用負担に備えるため、当連結会計年度末におけるポイント残高に対する将来の使用見積額を計上しております。

④特別修繕引当金

滑走路等の特別修繕に要する費用の支出に備えるため、将来の修繕見積額に基づき当連結会計年度負担額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

①航空系収入

主な航空系収入は着陸料収入であります。着陸料収入は航空機の着陸に係る収入であり、当社グループは、顧客である航空会社が運航する航空機を運営している空港に着陸させる義務を負っております。当該履行義務は、顧客である航空会社が運航する航空機が空港に着陸したことをもって充足されます。取引の対価は、通常、当該履行義務の完了後に受領しております。

②非航空系収入

主な非航空系収入は建物貸付料収入であります。建物貸付料収入は空港施設の賃貸収入であり、当社グループは、顧客であるテナント等に対して指定した空港施設を賃貸する義務を負っております。当該履行義務は、顧客であるテナント等が指定された空港施設を利用したことをもって充足されます。取引の対価は、通常、履行義務の充足前の一定時点に前もって受領しております。

(5) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

①ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法
ヘッジ手段
ヘッジ対象
ヘッジ方針

原則として繰延ヘッジ処理をしております。

金利スワップ

借入金

当社のリスク管理方針に基づき、将来の金利変動リスクの回避のためにヘッジを行っております。

有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の間に高い相関関係があることを確認し、有効性の評価方法としております。

②退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用については、発生年度に一括費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当連結会計年度末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

③消費税等の会計処理

公共施設等運営権の対価に係る控除対象外消費税等は無形固定資産の公共施設等運営権に計上し、事業期間にわたり定額法により償却しております。

④グループ通算制度の適用

当社および一部の連結子会社は、当連結会計年度からグループ通算制度を適用しております。

2. 会計方針の変更に関する注記

(1) 退職給付債務の計算方法の変更

当連結会計年度より、当社の連結子会社（関西国際空港熱供給株式会社、国際航空旅客サービス株式会社を除く）では退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法に変更しています。連結子会社では、グループ会社の組織再編を受け、新しい人事制度が定着し、退職給付制度についても新たな制度の導入に向け準備を進めています。その導入準備の一環として、現行制度においても原則法により退職給付債務計算の精度を高め、その退職給付費用を期間損益に反映することが適切であると判断したため行ったものであります。

当該会計方針の変更は、遡及適用され、当連結会計年度の期首の純資産に会計方針の変更の累積的影響額が反映されております。この結果、連結株主資本等変動計算書の利益剰余金の遡及適用後の期首残高は370百万円減少しております。

3. 収益認識に関する注記

3-1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

	実施契約に定める 義務的事業	実施契約に定める 任意事業	合計
航空系	43,031	1,541	44,572
非航空系	54,129	1,173	55,302
顧客との契約から生じる収益	97,160	2,714	99,875

※航空系は主に着陸料、停留料、保安料、旅客サービス施設使用料、旅客保安サービス料等であります。
非航空系は主に直営事業収入（免税・物販等）、建物・土地貸付料収入、駐車場使用料等であります。

3-2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記 1-4 会計方針に関する事項 (4) 重要な収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

3-3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から当連結会計年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

契約負債は、主に、建物貸付料及び土地貸付料にかかる顧客からの前受金に関連するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、1,438百万円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社及び連結子会社では、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の契約について注記の対象に含めておりません。残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (2023年3月31日)
1年内	1,626
合計	1,626

4. 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当連結会計年度に計上した項目のうち、翌連結会計年度において重要な影響を及ぼす可能性があるものは、以下のとおりです。

・繰延税金資産 45,488百万円

当該繰延税金資産の回収可能性は、将来の合理的な見積可能期間における課税所得の見積り額に基づいて判断しています。この見積りには将来の航空需要動向に関する仮定が含まれており、過去の実績及び当連結会計年度末日現在におけるIATA（国際航空運送協会）・ACI（国際空港評議会）などの航空需要情報を参考に、合理的と考えられる様々な要因を勘案した経営者の最善の判断に基づいています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響については、現時点で見通すことのできる需要を織り込んで見積り及び判断を行っております。需要の予測については不確定要素が多く日々刻々と状況は変化しておりますが、上記見積りにおいては、収益の柱である国際線の回復は道半ばで影響が残るものの、2023年度中には国際線も一定程度は回復するものと仮定しております。

ただし、将来の渡航制限の状況変化などにより、仮定に変化が生じた場合は、翌連結会計年度以降の連結計算書類において、繰延税金資産の回収可能性に重要な影響を及ぼす可能性があります。

5. 連結貸借対照表に関する注記

5-1 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

現金及び預金	54,111百万円
売掛金	7,958百万円
契約資産	26百万円
未収金	0百万円
建物及び構築物	867百万円
機械装置及び運搬具	10,613百万円
工具器具備品	4,752百万円
土地	577百万円
公共施設等運営権	1,277,460百万円
更新投資に係る資産	68,310百万円
投資有価証券	1,004百万円
その他	1,751百万円
計	<u>1,427,435百万円</u>

上記のほか、連結上消去されている売掛金（757百万円）及び子会社株式（14,700百万円）を担保（根拠権）に供しております。

(2) 担保に係る債務

借入金	203,167百万円
-----	------------

5-2 資産に係る減価償却累計額

有形固定資産の減価償却累計額

(1) 建物及び構築物	11,980百万円
(2) 機械装置及び運搬具	18,271百万円
(3) 工具器具備品	12,121百万円
(4) その他	105百万円

5-3 差入保証金

当社は、新関西国際空港株式会社との間で締結した関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権実施契約に基づき、新関西国際空港株式会社へ保証金を差し入れております。当連結会計年度末における差入保証金は、1年内回収予定の差入保証金として2,215百万円、差入保証金として88,352百万円を計上しております。

5-4 公共施設等運営権及び更新投資に係る資産

【実施契約（関西国際空港及び大阪国際空港）】

(1) 当社が実施する公共施設等運営権の概要

①事業名称 関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等

②事業の対象となる公共施設等の名称及び種類

(名称)

・ 関西国際空港

所在地 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 他

・ 大阪国際空港

所在地 大阪府豊中市蛍池西町3丁目555番地 他

(種類)

空港基本施設及び空港航空保安施設、空港機能施設等

③公共施設等の管理者等

新関西国際空港株式会社

④公共施設等運営権者の商号

関西エアポート株式会社

⑤事業期間・公共施設等運営権の存続期間

・ 事業期間 2016年4月1日～2060年3月31日

・ 公共施設等運営権の存続期間 2015年12月15日～2060年3月31日

公共施設等運営権は事業終了日をもって消滅する。

・ 公共施設等運営権存続期間の延長

公共施設等運営権存続期間は延長しない。

⑥収益連動負担金

認定収益1,500億円を超過した部分の3%

(株主に還元可能な資金の6%以内)

⑦公共施設等運営権の連結貸借対照表計上額

運営権対価 1,207,150百万円

その他 53,698百万円

計 1,260,848百万円

(2) 公共施設等運営権の減価償却の方法

定額法

耐用年数 44年

(3) 更新投資に係る事項

①主な更新投資の内容及び投資を予定している時期

主な更新投資の内容	予定時期
関西国際空港ターミナル改修	2022年3月期～2027年3月期

②更新投資に係る資産の計上方法

当社で実施した更新投資のうち、新関西国際空港株式会社の所有となるものについては、当該更新投資の支出額を無形固定資産に計上しております。

③更新投資に係る資産の減価償却の方法

当該更新投資を実施した時より、当該更新投資に係る資産の経済的耐用年数（当該更新投資に係る資産の経済的耐用年数が公共施設等運営権の残存する運営権設定期間を上回る場合は、当該残存する運営権設定期間）にわたり定額法により償却しております。

④翌事業年度以降、5事業年度に見込まれる更新投資のうち資本的支出に該当する部分

内容	金額
更新投資のうち資本的支出に該当する部分 (①に掲げる工事を含む)	1,263億円

(2023年5月12日現在の金額を記載しております。)

⑤更新投資に係る資産の連結貸借対照表計上額

更新投資に係る資産 67,519百万円

【実施契約（神戸空港）】

(1) 関西エアポート神戸株式会社実施する公共施設等運営権の概要

①事業名称 神戸空港特定運営事業等

②事業の対象となる公共施設等の名称及び種類

(名称)

・神戸空港

所在地 兵庫県神戸市中央区神戸空港1番地 他

(種類)

空港基本施設及び空港航空保安施設、空港機能施設等

③公共施設等の管理者等

神戸市

④公共施設等運営権者の商号

関西エアポート神戸株式会社

⑤事業期間・公共施設等運営権の存続期間

・事業期間 2018年4月1日～2060年3月31日

・公共施設等運営権の存続期間 2017年9月5日～2060年3月31日

公共施設等運営権は事業終了日をもって消滅する。

・公共施設等運営権存続期間の延長

合意延長は最長で2070年3月31日まで

⑥収益連動負担金

営業収益20億円を超過した部分の3%

(株主に還元可能な資金の6%以内)

※性能維持のための更新投資（空港用施設）を除く更新投資（空港用施設）の貸借対照表の簿価残高が26億円を超過した場合は、収益連動負担金を負担しない。

⑦公共施設等運営権の連結貸借対照表計上額

運営権対価 15,222百万円

その他 1,389百万円

計 16,611百万円

(2) 公共施設等運営権の減価償却の方法

定額法

耐用年数 42年

(3) 更新投資に係る事項

①主な更新投資の内容及び投資を予定している時期

主な更新投資の内容	予定時期
FIDS (Flight Information Display System) 更新	2024年3月期

②更新投資に係る資産の計上方法

関西エアポート神戸株式会社で実施した更新投資のうち、神戸市の所有となるものについては、当該更新投資の支出額を無形固定資産に計上しております。

③更新投資に係る資産の減価償却の方法

当該更新投資を実施した時より、当該更新投資に係る資産の経済的耐用年数（当該更新投資に係る資産の経済的耐用年数が公共施設等運営権の残存する運営権設定期間を上回る場合は、当該残存する運営権設定期間）にわたり定額法により償却しております。

④翌事業年度以降、5事業年度に見込まれる更新投資のうち資本的支出に該当する部分

内容	金額
更新投資のうち資本的支出に該当する部分 (①に掲げる工事を含む)	16億円

(2023年5月12日現在の金額を記載しております。)

⑤更新投資に係る資産の連結貸借対照表計上額

更新投資に係る資産 790百万円

5-5 圧縮記帳額

工事負担金等の受入れによる圧縮記帳累計額

建物及び構築物	49百万円
機械装置及び運搬具	2,036百万円
工具器具備品	941百万円
その他	41百万円

6. 連結損益計算書に関する注記

6-1 更新投資に伴う撤去費用

主に新関西国際空港株式会社が所有する空港施設等の解体撤去費用であります。

7. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

7-1 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
普通株式	1,000	—	—	1,000

7-2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

無配のため、該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年6月13日 取締役会	普通株式	未定	利益剰余金	未定	2023年3月31日	未定

「7-2 配当に関する事項(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの」において未定としておりました各項目につきましては、2023年6月13日の取締役会において、2023年3月31日を基準日とする剰余金の配当を無配とすることといたしました。

8. 金融商品に関する注記

8-1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは主に空港事業を行うために必要な資金を社債発行及び銀行等からの借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの債権管理に関する規程に基づき、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、取引先の信用状況を把握する体制をとっております。

投資有価証券は、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

差入保証金は、主に関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権設定に係る履行保証金であり、回収日は決算日後、最長で37年後であります。

営業債務である買掛金は、全て2ヶ月以内の支払期日であります。

社債及び借入金は、主に事業開始に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で37年後であります。借入金の一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用して、金利の変動リスクの一部をヘッジしています。

営業債務、社債、借入金及び差入保証金は、流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰り計画を作成する等の方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

8-2 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券（*2）	—	—	—
(2) 差入保証金（*3）	90,592	78,719	△11,873
資産計	90,592	78,719	△11,873
(1) 社債	4,860	4,873	13
(2) 長期借入金（*4）	218,307	218,377	69
(3) 公共施設等運営権に係る負債（*5）	1,252,205	1,088,357	△163,847
負債計	1,475,373	1,311,609	△163,764
デリバティブ取引（*6）	908	908	—

（*1）「現金及び預金」、「売掛金」及び「買掛金」については、現金であること、及び短時間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (百万円)
関連会社株式	1,004

(*3) 1年内回収予定の差入保証金を含んでおります。

(*4) 1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

(*5) 1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債を含んでおります。

(*6) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で表示しております。

8-3 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

区分	時価 (百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
デリバティブ取引	—	908	—	908
資産計	—	908	—	908

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

区分	時価 (百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
差入保証金	—	78,719	—	78,719
資産計	—	78,719	—	78,719
社債	—	4,873	—	4,873
長期借入金	—	218,377	—	218,377
公共施設等運営権に係る負債	—	1,088,357	—	1,088,357
負債計	—	1,311,609	—	1,311,609

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

デリバティブ取引

金利スワップの時価は、公表された相場価格が存在しないため、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

差入保証金

差入保証金のうち、履行保証金については、回収予定時期を見積り、国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。なお、履行保証金は無利子であります。

社債

当社の発行する社債の時価は、元利金の合計額と、当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

公共施設等運営権に係る負債

公共施設等運営権の対価であり、公共施設等運営権に係る負債の時価は、国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

8-4 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	71,702	—	—	—
売掛金	9,242	—	—	—
差入保証金	2,215	8,983	11,508	67,885
合計	83,161	8,983	11,508	67,885

8-5 社債、長期借入金及び公共施設等運営権に係る負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債	—	—	—	—	—	4,860
長期借入金	4,102	4,203	4,326	5,847	6,014	193,813
公共施設等運営 権に係る負債	30,326	30,508	30,691	30,875	31,061	1,098,742
合計	34,429	34,711	35,017	36,723	37,075	1,297,415

9. 一株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	25,224円53銭
1株当たり当期純損失	18,996円09銭

10. 追加情報

(グループ通算制度の適用)

当社及び連結子会社の一部は、当連結会計年度から、単体納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従っております。また、グループ通算制度適用による影響は軽微であります。

貸借対照表

〔2023年3月31日現在〕

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	87,077	流 動 負 債	82,103
現金及び預金	71,401	買掛金	31
売掛金	8,065	未払金	14,422
契約資産	26	未払費用	2,206
商 品	3	短期借入金	10,000
原材料及び貯蔵品	1,171	1年内返済予定の長期借入金	4,102
前払費用	1,474	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	29,926
1年内回収予定の差入保証金	2,215	未払法人税等	144
未 収 金	2,186	前 受 金	378
そ の 他	533	預 り 金	17,706
		契 約 負 債	1,787
		賞 与 引 当 金	363
		ポ イ ン ト 引 当 金	15
		そ の 他	1,016
固 定 資 産	1,496,912	固 定 負 債	1,485,125
有 形 固 定 資 産	20,019	社 債	4,860
建 物	15	長 期 借 入 金	214,205
機 械 装 置	9,524	公共施設等運営権に係る負債	1,206,053
車 両 運 搬 具	931	特 別 修 繕 引 当 金	49,439
工 具 器 具 備 品	4,432	退 職 給 付 引 当 金	2,036
リ ー ス 資 産	3	そ の 他	8,530
建 設 仮 勘 定	5,113		
無 形 固 定 資 産	1,329,087	負 債 合 計	1,567,229
公 共 施 設 等 運 営 権	1,260,110	純 資 産 の 部	
更 新 投 資 に 係 る 資 産	67,519	株 主 資 本	16,130
ソ フ ト ウ ェ ア	1,241	資 本 金	25,000
そ の 他	215	資 本 剰 余 金	25,000
投 資 そ の 他 の 資 産	147,805	資 本 準 備 金	25,000
関 係 会 社 株 式	15,570	利 益 剰 余 金	△33,869
差 入 保 証 金	88,368	そ の 他 利 益 剰 余 金	△33,869
繰 延 税 金 資 産	40,272	繰 越 利 益 剰 余 金	△33,869
そ の 他	3,777	評 価 ・ 換 算 差 額 等	630
貸 倒 引 当 金	△185	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	630
資 産 合 計	1,583,989	純 資 産 合 計	16,760
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,583,989

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

損益計算書

〔 自 2022年4月1日
至 2023年3月31日 〕

(単位：百万円)

営業収益		78,072	
空港・施設使用料等収入		78,072	
営業原価			82,417
施設運営費		40,309	
減価償却費		42,108	
営業総損失			4,344
販売費及び一般管理費			10,981
営業損失			15,326
営業外収益			1,142
受取利息		575	
受取配当金		2	
その他の営業外収益		563	
営業外費用			12,079
支払利息		12,011	
支払手数料		66	
その他の営業外費用		1	
経常損失			26,263
特別利益			103
補助金収入		103	
特別損失			1,959
固定資産除却損		999	
固定資産圧縮損		30	
更新投資に伴う撤去費用		929	
税引前当期純損失			28,119
法人税、住民税及び事業税		△407	
法人税等調整額		△8,179	△8,586
当期純損失			19,532

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

株主資本等変動計算書

(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 合 計	
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		株 主 資 本 合 計	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益		評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 合 計	そ の 他 利 益 剰 余 金 繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計				
当 期 首 残 高	25,000	25,000	25,000	△14,337	△14,337	35,662	△98	△98	35,564
当 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当				-	-	-			-
当 期 純 損 失 (△)				△19,532	△19,532	△19,532			△19,532
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)							728	728	728
当 期 変 動 額 合 計	-	-	-	△19,532	△19,532	△19,532	728	728	△18,803
当 期 末 残 高	25,000	25,000	25,000	△33,869	△33,869	16,130	630	630	16,760

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1-1 資産の評価基準及び評価方法

- (1) 有価証券
子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法によっております。
- (2) デリバティブ 時価法によっております。
- (3) 棚卸資産
商品 最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。
原材料及び貯蔵品 最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。

1-2 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産
(リース資産を除く) 定額法によっております。
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
- | | |
|--------|--------|
| 建物 | 15～38年 |
| 機械装置 | 2～18年 |
| 車両運搬具 | 2～13年 |
| 工具器具備品 | 2～20年 |
- (2) 無形固定資産
(リース資産を除く) 定額法によっております。
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
なお、公共施設等運営権及び更新投資に係る資産の減価償却の方法については、「4. 貸借対照表に関する注記 4-5 公共施設等運営権及び更新投資に係る資産」に記載のとおりです。
- (3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

1-3 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額のうち、当事業年度負担額を計上しております。
- (3) ポイント引当金 カード会員に付与したポイントの使用による費用負担に備えるため、当事業年度末におけるポイント残高に対する将来の使用見積額を計上しております。
- (4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。
- ①退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 数理計算上の差異及び過去勤務費用は、発生年度に一括費用処理しております。

(5) 特別修繕引当金

滑走路等の特別修繕に要する費用の支出に備えるため、将来の修繕見積額に基づき当事業年度負担額を計上しております。

1-4 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) 航空系収入

主な航空系収入は着陸料収入であります。着陸料収入は航空機の着陸に係る収入であり、当社は、顧客である航空会社が運航する航空機を運営している空港に着陸させる義務を負っております。当該履行義務は、顧客である航空会社が運航する航空機が空港に着陸したことをもって充足されます。取引の対価は、通常、当該履行義務の完了後に受領しております。

(2) 非航空系収入

主な非航空系収入は建物貸付料収入であります。建物貸付料収入は空港施設の賃貸収入であり、当社は、顧客であるテナント等に対して指定した空港施設を賃貸する義務を負っております。当該履行義務は、顧客であるテナント等が指定された空港施設を利用したことをもって充足されます。取引の対価は、通常、履行義務の充足前の一定時点に前もって受領しております。

1-5 その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

ヘッジ手段

ヘッジ対象

ヘッジ方針

原則として繰延ヘッジ処理をしております。

金利スワップ

借入金

当社のリスク管理方針に基づき、将来の金利変動リスクの回避のためにヘッジを行っております。

有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の間に高い相関関係があることを確認し、有効性の評価方法としております。

(2) 消費税等の会計処理

公共施設等運営権対価に係る控除対象外消費税等は無形固定資産の公共施設等運営権に計上し、44年間にわたり定額法により償却しております。

(3) グループ通算制度の適用

当社は、当事業年度からグループ通算制度を適用しております。

2. 収益認識に関する注記

(1) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記 1-4 収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当事業年度に計上した項目のうち、翌事業年度において重要な影響を及ぼす可能性があるものは、以下のとおりです。

・繰延税金資産 40,272百万円

当該繰延税金資産の回収可能性は、将来の合理的な見積可能期間における課税所得の見積り額に基づいて判断しています。この見積りには将来の航空需要動向に関する仮定が含まれており、過去の実績及び当事業年度末日現在におけるIATA（国際航空運送協会）・ACI（国際空港評議会）などの航空需要情報を参考に、合理的と考えられる様々な要因を勘案した経営者の最善の判断に基づいています。

COVID-19の影響については、現時点で見通すことのできる需要を織り込んで見積り及び判断を行っております。需要の予測については不確定要素が多く日々刻々と状況は変化しておりますが、上記見積りにおいては、収益の柱である国際線の回復は道半ばで影響が残るものの、2023年度中には国際線も一定程度は回復するものと仮定しております。

ただし、将来の渡航制限の状況変化などにより、仮定に変化が生じた場合は、翌事業年度以降の計算書類において、繰延税金資産の回収可能性に重要な影響を及ぼす可能性があります。

4. 貸借対照表に関する注記

4-1 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

現金及び預金	54,007百万円
売掛金	8,065百万円
契約資産	26百万円
機械装置	9,524百万円
車両運搬具	931百万円
工具器具備品	4,432百万円
公共施設等運営権	1,260,110百万円
更新投資に係る資産	67,519百万円
ソフトウェア	1,241百万円
関係会社株式	15,570百万円
計	<u>1,421,430百万円</u>

(2) 担保に係る債務

借入金	203,167百万円
-----	------------

4-2 有形固定資産の減価償却累計額 18,246百万円

4-3 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）

短期金銭債権	1,367百万円
長期金銭債権	2,608百万円
短期金銭債務	24,226百万円
長期金銭債務	24,160百万円

4-4 差入保証金

当社は、新関西国際空港株式会社との間で締結した関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権実施契約に基づき、新関西国際空港株式会社へ保証金を差し入れております。当事業年度末における差入保証金は、1年内回収予定の差入保証金として2,215百万円、差入保証金として88,352百万円を計上しております。

4-5 公共施設等運営権及び更新投資に係る資産

(1) 当社が実施する公共施設等運営権の概要

①事業名称 関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等

②事業の対象となる公共施設等の名称及び種類

(名称)

・関西国際空港

所在地 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 他

・大阪国際空港

所在地 大阪府豊中市蛍池西町3丁目555番地 他

(種類)

空港基本施設及び空港航空保安施設、空港機能施設等

③公共施設等の管理者等

新関西国際空港株式会社

④公共施設等運営権者の商号

関西エアポート株式会社

⑤事業期間・公共施設等運営権の存続期間

・事業期間 2016年4月1日～2060年3月31日

・公共施設等運営権の存続期間 2015年12月15日～2060年3月31日

公共施設等運営権は事業終了日をもって消滅する。

・公共施設等運営権存続期間の延長

公共施設等運営権存続期間は延長しない。

⑥収益連動負担金

認定収益1,500億円を超過した部分の3%

(株主に還元可能な資金の6%以内)

⑦公共施設等運営権の貸借対照表計上額

運営権対価 1,207,150百万円

その他 52,960百万円

計 1,260,110百万円

(2) 公共施設等運営権の減価償却の方法

定額法

耐用年数 44年

(3) 更新投資に係る事項

①主な更新投資の内容及び投資を予定している時期

主な更新投資の内容	予定時期
関西国際空港ターミナル改修	2022年3月期～2027年3月期

②更新投資に係る資産の計上方法

当社で実施した更新投資のうち、新関西国際空港株式会社の所有となるものについては、当該更新投資の支出額を無形固定資産に計上しております。

③更新投資に係る資産の減価償却の方法

当該更新投資を実施した時より、当該更新投資に係る資産の経済的耐用年数（当該更新投資に係る資産の経済的耐用年数が公共施設等運営権の残存する運営権設定期間を上回る場合は、当該残存する運営権設定期間）にわたり定額法により償却しております。

④翌事業年度以降、5事業年度に見込まれる更新投資のうち資本的支出に該当する部分

内容	金額
更新投資のうち資本的支出に該当する部分 (①に掲げる工事を含む)	1,263億円

(2023年5月12日現在の金額を記載しております。)

⑤更新投資に係る資産の貸借対照表計上額

更新投資に係る資産 67,519百万円

4-6 圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れによる圧縮記帳累計額	
機械装置	618百万円
工具器具備品	941百万円
ソフトウェア	41百万円

5. 損益計算書に関する注記

5-1 関係会社との取引高

営業取引による取引高

営業収益 7,561百万円

営業費用 11,073百万円

営業外取引による取引高

営業外収益 138百万円

営業外費用 1,585百万円

5-2 更新投資に伴う撤去費用

主に新関西国際空港株式会社が所有する空港施設等の解体撤去費用であります。

6. 税効果会計に関する注記

6-1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

賞与引当金 111百万円

未払事業税 40百万円

ポイント引当金 4百万円

未払費用 386百万円

未払金 245百万円

退職給付引当金 623百万円

特別修繕引当金 15,138百万円

子会社株式評価損 1,605百万円

繰越欠損金 34,019百万円

その他 292百万円

繰延税金資産小計 52,467百万円

評価性引当額 △1,605百万円

繰延税金資産合計 50,862百万円

繰延税金負債

公共施設等運営権 △10,311百万円

その他 △278百万円

繰延税金負債合計 △10,589百万円

繰延税金資産の純額 40,272百万円

6-2 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、当事業年度から、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

7. 関連当事者との取引に関する注記

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有割合)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	関西エアポ ートリテ ールサー ビス (株)	直接所有 100.0%	営業上の取引 役員の兼任	営業収益	4,093	売掛金	654
				営業運営委託費	573	未収金	8
						未払金	237
						前受金	1
						契約負債	85
						預り金	1,584
						その他	36

(注) 取引条件ないし取引条件の決定方針等

1. 取引の価格の算定は双方合意の上、契約等に基づき決定しております。
2. 取引金額には消費税等を含んでおらず、期末残高には消費税等を含んでおります。

8. 一株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	16,760円55銭
1株当たり当期純損失	19,532円23銭

9. 追加情報

(グループ通算制度の適用)

当社は、当事業年度から、単体納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従っております。また、グループ通算制度適用による影響は軽微であります。